

殺虫殺菌剤

第 23372 号

スターガード®プラスAL

種類名：ジノテフラン・ペンチオピラド水和剤

- 特長**
- いろいろな花と野菜の害虫・病気を同時に防除します。
 - 浸透移行性に優れ、コナジラミ類、アブラムシ類やうどんこ病、黒星病にも高い効果を示します。
 - なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、きゅうりには収穫前日まで使用できます。

【有効成分】 ジノテフラン……………0.010%
 ペンチオピラド……………0.010%

【性状】 類白色水和性懸濁液体 **【毒性】** 普通物※ **【危険物】** -

【有効年限・包装】 3年・1000mL×16

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

スターガードは三井化学アグロ(株)の登録商標です。



商品規格			
規 格	入 数		
1000ml	16		
希望小売価格・税抜(税込価格)			
1,300円(1,404円)			
サイズ幅×高さ×奥行(mm)			
個 装	110×250× 90	重 量	
外 箱	470×290×400	19.5kg	
ITFコード			
14571367110174			
JANコード			
4571367110177			

適用病害虫・使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフラン	ペンチオピラド				
なす	うどんこ病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内(育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	3回以内				
トマト ミニトマト	葉かび病 コナジラミ類					5回以内(育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌水は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)					
ピーマン	うどんこ病 アブラムシ類					3回以内(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)					
きゅうり	うどんこ病 アブラムシ類 コナジラミ類 ウリハムシ					4回以内(育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)					
すいか	アブラムシ類		収穫7日前まで			4回以内(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)					
キャベツ			収穫3日前まで			3回以内(育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌水は合計1回以内、散布は合計2回以内)					
はくさい ブロッコリー						3回以内(定植時の土壌混和及び灌水は合計1回以内、散布は2回以内)					
レタス 非結球レタス						4回以内(は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌水は合計1回以内、散布は2回以内)					
ねぎ	アザミウマ類 さび病		原液			収穫前日まで		2回以内	散布	4回以内(は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌水及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌水は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	4回以内(株元灌水は2回以内、散布は2回以内)
うめ	アブラムシ類									3回以内	
オクラ	アブラムシ類 うどんこ病	収穫前日まで		2回以内	3回以内(株元散布は1回以内、散布は2回以内)						
かんきつ				ミカンハモグリガ	3回以内		3回以内				
りんご				アブラムシ類 うどんこ病			3回以内				
なし				ケムシ類 うどんこ病			3回以内				
ぶどう	コナカイガラムシ類 さび病	収穫7日前まで		3回以内	3回以内(塗布は1回以内)						
かき	コナカイガラムシ類	収穫前日まで		2回以内	3回以内		4回以内(塗布は1回以内、散布は3回以内)				
もも	アブラムシ類						3回以内				
おうとう	カメムシ類						2回以内				
ばら	うどんこ病 黒星病 アブラムシ類 チュウレンジハバチ	発生初期	発生初期	3回以内	3回以内	5回以内(土壌混和は1回以内)					
花き類・観葉植物(ばらを除く)	うどんこ病 アブラムシ類					5回以内					
樹木類(つつじ類、つばき類を除く)	うどんこ病 ケムシ類					5回以内(株元灌水は2回以内)					
つばき類	ケムシ類 ツツジゲンバイ うどんこ病					5回以内					
つつじ類						5回以内					

■については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意

- (1)本剤はそのまま散布できるように調製してあるので、希釈せず散布すること。
- (2)使用前によく振って均一な状態にしてから使用すること。
- (3)日中高温時、強風時、降雨直前の使用はさけること。
- (4)薬害が生じるおそれがあるため、本剤の過剰な散布はさけること。
- (5)ぶどうの幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるため使用をさけること。
- (6)花卉には薬害のおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (7)薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する。
- (8)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9)ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10)適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1)人に向かって噴射しないこと。
- (2)誤飲などのないよう注意すること。
 - 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (3)作業の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用すること。
 - 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (4)街路、公園等を使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光を避け、子供の手のとどかないなるべく低温な場所に密栓して保管すること。